

木製飛行機の聞き書き 2016/1/28

戦後七十年を経た今日、悲惨な戦時中の体験を記録するために、かほく市在住の人物、かほく市内の出来事をまとめてみた。

記憶をたどり思いつくままに書いたので纏まりのない文になったことをお許し願いたい。
聞き書き その1 [木製飛行機]

今は亡き宇野気出身の知人（昭和7年生まれ前職公務員／司法書士）から数年前に聞いた戦時中の思い出話を当時の背景を知る上で蛇足も含めて記述した。

「宇野気町森地内に金沢市の川崎氏が経営する川崎織物があった。昭和11年頃でも男工35名女工306名を擁する郡内でも有数の大工場であった。」

昭和16年の宇野気町繊維の生産額（開戦時） 宇野気町史

織物種別	生産金額（万円）	記 事
交換羽二重	162	主に朝鮮向けに生産された。
人絹	48	人造絹糸による織物、スフ、モスリン
ゴム入り人絹紐	15	ゴムの供給が止まり衰退。
絹撚糸	7	詳細不明
合 計	232	現在の換算価格 23億5,千596万円

昭和16年12月8日大東亜戦争が始まり昭和17年9月零細企業の企業整備が行われた。取引先別地域別等に小組合、有限会社に集約されるか廃業を余議なくされた。

また軍需工場に転換された金沢航空機の疎開工場（陸軍航空工廠金沢製作所分工場）で旋盤やボール盤30台、150名）が木津にあった。

川崎織物は木製飛行機の関東民生産業株式会社に身売りされ、大工、建具職、製材職等多くの人が木製飛行機を製造することとなった。製造台数等は記録されていない。

参 考

昭和18年6月12日に当時、繊維大手の日本レーヨン株式会社が日本航空機製造株式会社として軍需工場に転換され満州で墜落し捕獲されたソ連の木製「ラグ二型機」の素材を参考に開発し、下表の生産実績を上げている。

ユニクロ百年史

製 品	単 位	昭和19年度	昭和20年度
木製合板プロペラ	片	1, 265	1, 152
操縦かん連動滑車	m ³	10, 437	3, 977
硬化積層材骨組み	m ³	130, 511	27, 061
普通積層材 桁等	m ³	176, 166	109, 483
普通合板 外装材	枚	111, 620	64, 780

使用された木材はブナ、シイ、ヒノキが主であった。これらの木材は山から人力で切り出し工場まで運搬した、機械力皆無、自動車も無く成人男子も少なく銃後の婦人、老人、学童には多大の苦難が強いられた。

(操縦かん連動滑車の生産単位が「m」になっているが「コ」ではないだろうか。)

参 考

昭和18年静岡県で目撃した墜落陸軍練習機のプロペラは木製であり外装は布張りであった。昭和29年に三重県鈴鹿陸軍航空基地の格納庫を整理した際、木製プロペラが多く放置されていた。「終戦時一番先に飛行機のプロペラを撤去し飛べないようにしたのでその残骸だ」と説明された。宇野気工場もプロペラ等を一部製作したと思われる。(井口記)

「私が入社した動機は、親戚が当工場に勤務しており人手不足の厨房で職人の食事作りを懇願されたためである。

食糧難の当時は質はともかく食事の心配いらず、願ってもない職場であった。

工場で作られる飛行機は見せかけの飛べない飛行機であり、アメリカ軍に日本に迎撃用の戦闘機があることを見せつける抑止力として製作されたのである。

これに類似したものとしてブリキ製や木製の高射砲、戦車などがあった。

私が聞いた話によると近畿地方にも同様な工場があり、展開してある木製飛行機が敵機に銃撃されたが発火せず偽物と見破られた。発火用のガソリタンクを取り付けて本物と勘違いさせる対策をとつたとのことである。

戦争末期は「ガソリン一滴は血の一滴」の標語通り貴重品で代用品に木炭バスがあった。宇野気工場の木製飛行機には当然の事ながらガソリタンク無しであった。

その頃の小学生はガソリンの代替え燃料として松の木から油を取る為、ナイフで溝を付けて、にじみ出る松油を竹筒に受ける作業が授業の代わりであった。

今でも兼六園の老松に当時の溝跡が残っている。

当時は松根油燃料は直径30センチの松200本で戦闘機が一時間飛行できるとのことであり、松一本で18秒飛行距離の計算になる。

通常は伐採して数年たった松をまるまる乾溜しての計算であるから、松の表皮から採取していた小学生の取る松根油は本当に雀の涙であった。

当時の生産目標は昭和20年度百万Kリットルで国あげての一大プロジェクトであった。

その発想はドイツ軍新鋭機がフランス海岸の松から採取した松根油テレピン燃料を使用していたことを聞いた軍部が天佑神助として採用したことによる。

又、北陸、東海、近畿、九州、北海道(函館周辺)地区は陸軍用に、中国、関東、東北四国地方は海軍用であった。松までが陸軍、海軍に仕分されたことに呆れるばかりである。

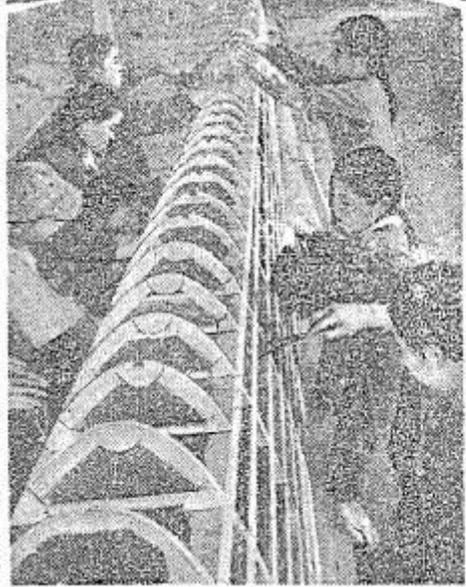
この松根油は精製工程の不備によりテスト飛行ではオクタン値が低く実戦には使用できず壮大な無駄プロジェクトであった。」



戻る敵潜三

日本海で海防艦の殊勳

【東京4日電】日本海防艦隊は、北緯四十度の日本海に、敵潜水艦三隻を捕獲し、そのうち二隻を沈没させた。この殊勳は、海防艦隊の戦績として、戦時以来の最高記録である。海防艦隊は、日本海に展開し、敵潜水艦の出没を監視し、捕獲した。この殊勳は、海防艦隊の戦績として、戦時以来の最高記録である。海防艦隊は、日本海に展開し、敵潜水艦の出没を監視し、捕獲した。この殊勳は、海防艦隊の戦績として、戦時以来の最高記録である。



本土決戦へ入魂の木製機続々生産

①材作業 機をけられつくした機体の部材を、工場の敷地の隅に積み上げる作業員が写っている。

【東京4日電】日本海防艦隊は、北緯四十度の日本海に、敵潜水艦三隻を捕獲し、そのうち二隻を沈没させた。この殊勳は、海防艦隊の戦績として、戦時以来の最高記録である。海防艦隊は、日本海に展開し、敵潜水艦の出没を監視し、捕獲した。この殊勳は、海防艦隊の戦績として、戦時以来の最高記録である。

太平洋戦に觸れ

ボツダム三頭會

【東京4日電】太平洋戦争は、ボツダム三頭會の結果、終結した。日本は、降参した。この結果は、太平洋戦争の終結を告げるものである。日本は、降参した。この結果は、太平洋戦争の終結を告げるものである。日本は、降参した。この結果は、太平洋戦争の終結を告げるものである。

8月4日の朝日新聞(大阪本社版)の1面には「本土決戦へ入魂の木製機続々生産」との写真と記事が載った。(撮影場所や日時は明らかにされていない。)

通称「赤トンボ」木製飛行機は「93式中練」と呼ばれ戦争末期に特攻機として採用され250kg爆弾を積んで出陣した。米軍の近接信管付高射砲では木と布の機体では反応しない利点があった。 命中弾も布の翼を突き抜けて墜落は無かった、戦果は駆逐艦1沈没大破2が記録されている。 「戦地からの最後の手紙」 将口泰浩

ドイツ1944年に開発した機頭にロケット弾33発を装備した急造ロケット迎撃機Ba349ナッターは戦争末期の製造で木製であった。(時速870kmで無人無線操縦式) 有人飛行試験でロケット発射時のGに耐えられずパイロットが失神し、墜落した事故あり。



全村を
あげて
松根赤だすき

松根油緊急増産運動

らか根の松



ンリツが

會濟經業農國全・省商農・省軍海・省軍陸